



## 表に現れない、見えていないものこそ大切に

校長 吉満 ふくみ



雨の中、紫陽花（あじさい）が美しく咲き、私たちの心を和ませてくれています。星のような形をした花が花火のように咲く姿は、梅雨時期のうっとうしさをパッと明るくしてくれます。近寄って見ると、紫色や青色、白色の中にも、それぞれ色味が濃いもの、薄いもの…と様々で、個性豊かな安城の子供たちと同じで、それぞれに私たち大人の心に癒しや元気を与えてくれます。



6月は、安城らしい特色ある行事や活動が多い月でした。

日頃から、安城の子供たちを支えてくださっている保護者や校区・地域の皆様とさらに接する機会が多く、毎回本当に感謝いたすことばかりでした。いつも、ありがとうございます。

さて、社会では「どうしてそんなことをするのだろう」と思う犯罪や出来事があとを絶ちません。悲しいことです。

では、こうした行為を起こすのは、なぜなのでしょう。私は、多くの場合、ものごとを自分を中心に置くことでしか考えられないからではないかと考えます。それは、他者への気付きや相手を思うことができていることにつながります。

先日、出張する前にバタバタと準備をして出かけようとする私に、一年生が「校長先生、どこに行くんですか。」と聞いてきたので、「今からね、街で会議があるの。市役所のところ。」と答えたところ、「あー、そうなんだー。気をつけてがんばってきてくださいねー。」とにっこりと手を振り、見送ってくれました。慌ただしさで少し気持ちの余裕がなくなっていた私は、その言葉と笑顔に、ほっこりして、とても嬉しくなり、元気をもらいました。ありがたい気持ちで、出張に行くことができました。その子供は、朝の登校指導の時に、時々元気のない表情の時があり、朝のあいさつとともに、ちょっとした会話をして、正門への坂を上る後ろ姿を見送ることもありますが、今回は私が見送られる側になり、この「お返し」の言葉と笑顔に感謝するばかりでした。

そんなありがたいと思う気持ちを抱いて、真っ先に思い浮かんだのは次の言葉です。

『心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。』

これは、フランスの小説家アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリが書いた「星の王子さま」に出てくる言葉です。前述した悲しい行為を行ってしまう人は、この言葉にあるように、見えないけれど人として大事なことを心で見ようとしていなかったのだと思います。

社会の中では、数値や映像などによって、可視化することで分かりやすくなる場合があります。しかし、すべてを可視化できるわけではなく、むしろ表に現れない、見えていないもの・見えていないことによって社会が回っているといっても過言ではありません。

友情、信頼、決意、愛情、感謝、優しさ、悲しさ、約束、想い、絆など、どれもみんな表には現れない、見えていないものですが、よりよい社会をつくるために、また一人一人が豊かな人生を生きていくために、とても大切なことです。大切なことは、失ってはじめて気付くことがあります。そうならないためにも、見えないこと、見えにくいことに思いを馳せる素直な心をもつこと、それをもとに他者を大切にす心や思いをもち続け、心遣いや思いやりの行動で表すことが肝要です。

そのために私たち大人は、未来を生きる子供たちに表に現れない、見ようとしなければ見えない大切なことを自身の行動で伝えていきましょう。そうすると私たち大人にとっても、当たり前毎日が輝いて見えてきたり、当たり前前に過ごさせていることが幸せに思えたりすることでしょう。